
無能者

黒蝶 白夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無能者

【Nコード】

N6108Y

【作者名】

黒蝶 白夜

【あらすじ】

魔法が使えない人間として生きていく主人公の佑兔。無能者として蔑まれ、馬鹿にされる日々。
あるとき、彼はある一人の人物と出会った。その人物との出会いで彼の止まっていた時間が動き始めた。

プロローグ

無能者

「眠い……………」

そう言ったのは黒のネクタイをして、有名な魔法高校の二年生と思わしき少年がいた。周りにいた生徒達は彼の声を聞いて、彼を蔑むように見ていた。蔑まれている彼は、平然としていたのでそれがここでの普通と言うことだろう。

彼の名前は、伊崎^{いさき} 佑兔^{ゆうと}と言う。

佑兔が何故このような状態なのは、佑兔自身の力ゆえだった。

少し昔話をしよう。

この地球には魔法が使える人がありふれていて魔法が使えないと言う人は誰一人として居なかった。それが常識だった。みんながみんな才能があり、自らの力を高めていった。けどその常識が通じない人間が生まれた。それは今から、16年前の事。赤ちゃんは生まれて一ヶ月後にどの魔法が使えるか調べる。何故一ヶ月後に調べるのかは、生まれてすぐだと上手く制御ができなく、暴走してしまうからだ。ある程度体に馴染ませるのにかかる時間が一ヶ月ぐらいだと言われているからだ。

そこである一人の赤ちゃんを調べていたときだった。その赤ちゃんを調べようと、魔法探索器^{マジックサーチ}をかざした。普通なら、すぐに結果が出るのだが出てこなかった。不思議に思った医師は何度繰り返し返したが、何も反応しなかったのだ。医師はこの赤ちゃんの事を世界中に知らせた。そうして世界の常識が崩れた。

さっきの話に戻るが、佑兔は世界初の魔法が使えない人間なのだ。なのに世界トップのこの魔法高校『リーシュベル魔法学院』に居る。その事が認められない生徒達はよく佑兔を蔑んでいるからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6108y/>

無能者

2011年11月18日11時40分発行